



長野高校

1 学年

SGH 通信

# 有 隣

緑のファイルにまとめましょう

第 6 号

2016 年 6 月 9 日 (木)

5 月 28 日 (土) に米国リーダー研修報告会がありました

予習・授業・復習に例えた説明やクイズを交えたプレゼンテーションは圧巻でした。

～生徒のワークシートより抜粋～

・米国リーダー研修について、明確に分かっていなかったが、実際どんなことをしたのか分かった。自分から話しかけていかないと、学ぶことが少なくなってしまうと言うことで、積極性が大事なんだなと思った。話を聞いているだけでもアメリカのスケールが伝わった。

・「自分でデザインすることの楽しさ」「積極的に行動することの大切さ」は、普段の生活でも通じる所があると思うので、意識して生活していきたいです。

・米国リーダー研修について、行ってみたいとは思っていましたが、どのような活動をしているのかは知りませんでした。今回聞いてみると、普段は絶対に見学できないような大学や国連などへ行き、世界について学習していて、すごいなと思いました。積極的に英語でコミュニケーションをとることで、世界が変わるのではないかと思います。外国に行って、異文化に触れてみたいと思いました。

・MITの敷地の広さには唖然としました。まさか、あんなに広いとは・・・

・今日の話聞いて、米国リーダー研修にすごく行きたいと思いました。事前準備の大切さ、ランチミーティングも英語で行うと聞いて、なるほどと思いました。大学の、その先を考えると良いということも分かりました。「外に出よう!!」というのを、私も意識してみたいです。

・米国リーダー研修は、自分たちの行きたい所へ行くこと、したいことが沢山経験できる場だということが分かりました。特に、ハーバード大学やミルバーン高校でのディスカッションは、現地に行かないと学べないことを学べると思いました。私も行きたいと思うので、日々の勉強、SGH活動をもっと頑張らないといけないと思った。

・事前学習で土地のことや人について知ることで、良い経験につながり、実際に自分でプログラムを作ることによって主体的な行動ができると感じた。人とのつながりを持つことが大切だと分かりました。積極的に自分から行動する事によって、多くの主体的な経験ができる。それは、小さな事から始められると思います。



- ・国連でU F Oが議題に挙がったことが印象に残った。
- ・米国研修は、修学旅行の外国版かと思っていたけれど、全く違って驚いた。今回の報告会でアメリカの文化や人の性格の違いをより詳しく感じる事ができた。
- ・大学を選ぶ時には、その先を見据えて自分のやりたいことを見つける！！
- ・先輩方の一番伝えたかった「外に出よう！！」というメッセージはとても印象に残った。私も自分からチャンスを見つけて、自分が今まで関わりの無かったモノ・人と積極的に関わっていきたい。
- ・私は他の人と比べて消極的な所があるので、まずは身近な人に自分の意見をしっかり伝える事、そして一歩外へ踏み出して自分の世界を広げていきたいです。恐れずにいろんな事に挑戦したいと思いました。

## グローバルに活躍する日本人経営者がみる日米の違い

希望者に贈呈します

吉村克己『主張できる日本人になる』

教頭 小川幸司

今から約 20 年前、アメリカを代表する航空会社のコンチネンタル航空が経営危機に陥った時、ひとりの日本人が副社長として会社の再生を見事になしとげた。彼の名は鶴田国昭。私立の工業大学の在学中に学生結婚をして大学を中退し、独学で鍛えた英語力を武器に川崎重工業に勤めるも日本の企業のありかたに疑問をもち、渡米してアメリカ社会で活躍するようになる。ピードモント航空、次いでミッドウェイ航空で業績をあげ、ついにコンチネンタル航空の副社長に迎えられた。

本書は、ルポライターの吉村克己が、鶴田本人に取材して彼の軌跡をまとめた本である。鶴田の生き方から浮かび上がってくるのは、私たちが当たり前だと思っている日本の企業文化に対する鋭い問題意識であり、他方で私たちの通俗的理解をこえて存在するアメリカ社会の強みである。タイトルの「主張できる日本人になる」という言葉は、もっと世界に出て自己主張しろと言う意味ではなく、日本人は自己満足を反省しないと世界に通用しなくなるだろうという鶴田の危機意識の表現である。だから本書は、日本とアメリカの物事の考え方の違いがどこにあり、私たちが謙虚に反省すべき点がどこにあるかを考える際にとっても参考になる。

一例をあげよう。鶴田はコンチネンタル航空で「ワーキング・トゥギャザー」を合言葉にした。それこそ「和をもって尊しとなす」日本の経営ではないかと思われるかもしれないが、鶴田は日本の経営に「ワーキング・トゥギャザー」は欠如していると手厳しい。真に「ワーキング・トゥギャザー」と言うのならば、社員に深夜までの労働を強いるのではなく、社員の精神的・身体的な過労をなくすような努力をすべきである。社員の猛烈な働き方に依存する日本は、結局のところ生産性を向上させることができず、その結果、価格競争において世界の企業に後れをとることになってしまったのだと鶴田は分析する。

また、鶴田は、「スクールエリート」ではなく「ストリートスマート」である人間を育てるべきだと主張する。自分が問題だと思うことを学校から社会に出て、自分の眼で確かめ、考えられる人間が「ストリートスマート」だ。「路上という実社会で鍛え抜かれた知恵と判断力と実行力を持っている人」こそが、これからの社会を担うのだ、と。

この本 15 冊を本校 O B で上田高校や松本深志高校の校長職を歴任された藤本光世さんから、「後輩にとって参考になると思うので使ってください」と寄贈していただきました。1 冊を図書館におき、残りを希望者にプレゼントしますので私のところに来てください。本は新書版で 170 ページ（定価は 880 円）です。手軽に読みこなせる文体ですし、何より私自身、読んで大いに勉強になりました。入手した人には感想文を課す…なんてこともしないのでご安心を。後輩を激励して下さる藤本先生に感謝しつつ、読んでくださいね。

希望者は教務室の小川教頭先生の所まで行ってください。先着 15 名の方に贈呈します。